

私を育てた  
あの時代、あの出会い

第18回

# 新しいことへの挑戦をためらわず 勉強する大切さに気付かされた

静岡県 藤枝市立青島北小学校校長 近藤照子 KONDO TERUKO

教師は日々、さまざまな働き掛けの中で子どもを育てる。そして教師は、共に働く仲間との出会いの中で育っていく。出会いから学んだ教育の原点、そして次代を担う若い世代に伝えたい不易を、近藤校長が語る。

博識ぶり、洞察力の深さに  
自分の勉強不足を痛感

私は38歳から2年間、静岡大大学院に長期派遣で通いました。今までの経験の蓄積でその後の教師人生を乗り切るのではなく、新しいことに挑戦していこうと思ったからです。そう思ったきっかけは、桑高文彦先生主催の勉強会への参加でした。私は当時、中学校の国語科教員で、県内でも国語教育に信望のあった桑高先生に学ぼうと考えたのです。

そこで予期せず、「静岡県中学校学力診断調査」の作成委員に任命されました。当時、私は30代前半でしたが、作問に対する意識は相当甘いものでした。選んできた問題文を提示すると、監修長の桑高先生に選定理由を聞かれました。「こういう人の推薦があったから」と答えると、「自分ではどう読んできたのか」「これで子どもの思考に沿った問題が出来るのか」と厳しい口調で問い正されたのです。そこまで考えていなかった私は、黙ってうつむくしかありませんでした。ただどんなに厳しくても、私は作成委員を辞退しようとは思いませんでした。先生はとても勉強家で、会議ではいつもびっしり書



こんどう・てるこ 専門教科は国語科。藤枝市立葉梨中学校、藤枝市立広幡中学校などを経て現職。1996年から2年間、静岡大大学院に長期派遣。藤枝市立青島北中学校教頭を務めた後、同校区の藤枝市立青島北小学校校長に着任。

1981 (昭和56)  
新採として  
熱海市立熱海中学校  
に赴任

1985 (昭和60)  
静岡市立服織中学校  
に赴任

1987 (昭和62)  
藤枝市立葉梨中学校  
に赴任。  
1990年から6年間、  
「静岡県中学校  
学力診断調査」の  
作成委員を務め、  
桑高文彦先生の  
指導を受ける



葉梨中学校で3年間  
持ち上がった学年団。  
左端が近藤先生、  
右から2番目が  
長谷川彌生先生

1997 (平成9)  
藤枝市立青島北中学校  
に赴任

2003 (平成15)  
藤枝市立広幡中学校  
に赴任

2009 (平成21)  
藤枝市立青島北中学校  
に教頭として赴任

2013 (平成25)  
藤枝市立青島北小学校  
に校長として赴任

かれたメモを手元に話をしていました。国語教育の大家でありながら学び続ける姿に、私は自分の勉強不足をただ痛感し、とにかくついでという作問に取り組みました。

また、勉強会では持ち回りで授業案を発表し、皆で検討しましたが、桑高先生の作品への洞察力は鋭いものがありました。例えば、芥川龍之介の『トロッコ』は少年の心情の変化を追うことが多かったのですが、先生は「少年の初めての大人体験の物語」の視点を指摘されたのです。そこに焦点を当てると、授業は全く別の展開となり、作品をより深く味わえるものとなりました。過去の実践例の良い点を取り入れるだけでなく、古典であれば原文も読み込むなど、自分なりに作品を捉えて授業をつくる大切さを学びました。

作成委員や勉強会などを経験した私は、もっと視野を広げたいと思うようになり、大学院で学ぶ決意をしました。復職後、私の授業は大きく変わっていききました。ディベートやディスカッション、調べ学習の発表など、生徒の活動を授業の中心に据えたのです。中学3年生の3学期、高校1年生で扱う『羅生門』を読み、生

徒が物語の続きを書いて、それを読み合う読書会を開きました。入試を控えた時期に受験に直接関係のない内容にもかかわらず、生徒は生き生きと取り組んでいました。そうした生徒の姿に、私は「今日はどんな授業にしよう」とわくわくしながら教室に向かうようになっていました。

### 先生方の思いを大切に 中学校の経験も生かす

今、全国で小中連携が進められています。私は教頭を務めた中学校の校区の小学校校長となりました。

管理職として手本としているのは長谷川彌生先生です。私が30代前半、先生が学年主任を務めた学年団で3年間ご一緒しました。長谷川先生は上に立つ者のあるべき姿を行動で示されていました。ある時、担任の生徒への対応について、保護者から説明を求められました。長谷川先生は、担任を矢面に出さず、保護者に誠実に対応し、その場を収められました。また、三者面談の期間には毎日、全員が終わるまで職員室にいて、お茶を出しながらねぎらいの言葉を掛けてくれました。そうやって、保護者と何かあれば、すぐに相談できるよ

## 「温かく誠実に対応し、 最後は私が責任を取る」



うにしていたのです。最後は私が責任を取る——管理職としての気概を持ち、それを温かく示すことを長谷川先生の姿に学びました。

本校に赴任して1年半が経ちました。先生方が大切に行っていることを私も大事にしながら、中学校での経験を生かした学校経営を心掛けていきます。例えば、生徒指導上の問題をすぐに共有できるように、生徒指導主任から「一報」として回覧していきます。また、問題に対して初期段階

から、担任1人ではなく、学年主任や教務主任、教頭などが必ず付いて対応することになっています。担任に精神的な負担を掛けず、また保護者や地域とのよい関係を継続できるようになればと始めました。

今後、道徳や外国語活動の教科化など、小学校でも新たな教育活動が始まろうとしています。新しいことへの挑戦をためらわないという姿勢が今こそ問われていると肝に銘じ、先生方を支えていきたいと思えます。